

※発言をそのまま書き起こしたデータを基に、個人情報に関する部分を削除し、文意が通るように修正を行っています。

【全体共有 1】

(総合 F) 皆さん、準備をどんどん進めていただいて、ありがとうございます。全体共有を始めたいと思いますが、準備が進んだ順ということで、B班、C班、A班という順序で発表をしていただきます。

各班、発表は5分です。お一人で5分使っても構いませんし、何人かの方で5分使っても構いません。それぞれ、お考えいただければと思います。

B班から始めますので、A班、C班の方は、ポストイットとマーカーを持って、近くに来ていただければと思います。この発表の間は、直接の質問の時間を持ちません。ですから、質問したいことがあったら、ポストイットにメモをしてください。どうぞ、椅子を持って、近くに来ていただければと思います。

それでは、まず、温かい拍手をお願いいたします。

(拍手)

—— B班ですが、『「原子カムラ」はあるのか、ないのか、何なのか?』というのは、はっきり言えば、定義がよく分からないから、それほど深みがない話になる。ということが結論です。あるといえばあるし、ないといえばない。その中でいろいろな意見がありますけれども、まあ、それは無視します。

「ある」ということになった場合、定義がどうかは別にして、『「原子カムラ」というものをどうしたらよいか?』というところに焦点を絞っています。

何が今問題なのかというと、一番言いたいことは、原子力産業に従事している人たちは、倫理観をちゃんと持っているのかということなんです。国に対する倫理観、家族に対する倫理観、それから技術に対する倫理観を持っていてやっているのですか? それとも単にサラリーマンでやっているだけなのですか? それにしては罪が重いですよ。こういう話になってしまうんですね。

そのときに、誰が(倫理を)教育すればいいのかというと、私は、企業じゃ駄目だと思っています。東電が、東電の社員を集めて、「お前たちの倫理は」と言ったって、駄目だと思っています。第三者がやらないと駄目。やはりそれは、日本原子力学会が中核となって倫理教育をしていく。それをオープンにする。ということだと思います。

それをやったとき、倫理観が豊かな技術者が会社ともめるときがある。「社長、そんなことをしたら駄目ですよ」「うるせえな、部長にしてやらないぞ」、そういうふうになってしまう。では、個人と会社が対立したらどうするのか。会社を辞めざるを得ない。辞めたら

食えない。ということで、日本の最大の問題は、技術者の人たちの労働市場が流動化していないこと。と、私が勝手に皆さんを説得したわけですね。そうなってくると、もっと幅広く、いろいろな技術を発展させなければいけない。そうすれば、世界に売れる。そうしない限りは、ここにしがみつかざるを得ないという感じです。

では、その後ろに何があるかという、はっきり言えば国が無責任だということです。まあ、民主党政権か自民党か、よく分かりませんが。国が意思決定をわざと遅らせているように見える。選挙の後にしよう、何とかの後にしよう、俺がやっている間はやめようとか。そういうことが、今の日本人のいわゆる毛嫌いのもとになっている。でも、これは我々に言っても仕方がない、明日投票すればいい話ですけどね。

「原子力ムラ」があるかないかというよりも、今の原子力産業というものをどうするか。働いている人たち、家庭の夫であり、子供がいる人たちが、安心できるような基盤を作っていくということ。それが、原子力ムラがあるからできないのかどうかというのはよく分かりませんが。

というのが私の意見です。B班の方で、今の意見に追加がありますよね。

—— すそ野を広げるということですね。元々原子力は技術の幅が広いので、例えば他の分野にもっといろいろな技術を広げるとか、そういうことをやることによって、ムラという境界自体がどんどん広がって行って、ムラがマチになるかもしれない、クニになるかもしれない、というような意見もありました。

—— もう少し付け加えますと、倫理感もすごい大事だと思うんですけど、例えば福島第一原発について、2006年の時点で、津波のリスクを認識しているレポートがあった。それに対応をしなければいけないというレポートがあったにも関わらず、ああいう状況になってしまったという事実があるのを知りまして。

やっぱり、現場のほう、それから分析している人は分かっているけど、結果、意思決定に反映されなかったという問題意識を私は持っているのですね。

なので、倫理観だけだと、現場任せになってしまうので、物事を決める意思決定のプロセスのところ、一般市民の感覚がほしいなど。

で、荒唐無稽かもしれないんですけど、裁判員制度ってありますよね。ああいう形で、意思決定の場に一般市民が参加すると、資料も分かりやすくなったり。まあ、かなり思いつきなんですけど、そういうものもあってもいいのかなとは思っております。

—— 原発再開は国民投票にかけたらいんじゃないかという意見もありました。本当に皆の生活のために投票しましょうということで、ちょうど(時間になりました)。以上です。

(拍手)

(総合 F) ありがとうございます。皆さん、今は質問はなしですので、メモしてください。

それでは、ポストイットを持って、今度は C 班のほうに移ってください。それでは、大きな拍手をお願いします。

(拍手)

—— 原子カムラは「あるのか、ないのか」ということで、皆さんすぐに答えを書いていただきました。全員が「ある」という簡単な答えなので、意外と 6 人だったらまとまって、さっきの班とは大違いだなというのがありました。

原子カムラは「何なのか？」というので、答えが 2 通りに分かれました。ひとつは、非常に客観的な定義というか、例えば、産・官・学とか、こういった集合体、集団であるという、良い意味も悪い意味も、そういう辞書の定義のようなもの。

その一方で、やはり「原子カムラ」という言葉自体から出てくる、いわゆる批判的な見方。こういう定義もあるんじゃないかと。原子カムラという言葉は、最初から思っている人にとっては客観的に見えるけど、どちらかという市民の人は、そういう批判的な、悪い意味というんですかね、そういう見方の定義がありました。そこは 2 つに分かれてしまったなという気がします。

次が、ではどうしたらいいのかということですね。大きく 2 つ出ていました。ひとつは、原子カムラに「多様性」を持たせるべきだと。多様性にはいろいろな意味がありまして、先ほどの産・官・学のそれぞれに多様性を持たせるということでは、例えば、国際的にいろいろな人間をそういうポジションにあてるとか。あるいは、年寄りばかりではなくて、若い人たち、いろいろな人たちが集まって、意見を述べたりできるような、そういう組織にすべきだと。国際的、あるいは、年齢的、あるいは、もうひとつ出たのが男性と女性。男性ばかりに偏った社会、こういういびつな偏った社会ではなくて、まあ、偏ったというのも変ですけど、同一的、同質になっているような組織を変えて、多様性を持たせるのが、ひとつの解決方法だろうということでした。

もうひとつは、今回の福島事故を反映して、「情報提供のあり方」を大きく改善する必要があるということです。一番大きいのは、単に情報を出すということではなくて、出すほうと受け取るほうの信頼関係ですね。こういうものがないと、そもそも情報を出す意味がないと。だから、情報を出す前に、この信頼関係をどう作るかということが必要だろうし。それから、今出てくる情報は、端的に言えば東電なりそういうところからしか出てこないわけだから、当事者ではない第三者から、あるいは中立的な立場の機関、人間から出てこない、そもそも情報提供の意味がなくなってしまう。ですから、情報提供としては、信頼関係と、そして、中立的な第三者機関からの提供、こういうことを考えた方がいいのではないか。こういう提案がありました。

その他たくさん議論はあったんですけども、まとめると以上です。ご清聴ありがとうございます

ございます。(拍手)

(総合 F) 少し時間があるようですので、追加意見がある方はコメントいただければと思います。

—— 多様性のところで補足させていただきたいんですけども、ムラと呼ばれる各々の組織、会社、その中のいろいろな部門とか、そういった組織の中で、たぶん 3 人くらいで最終的に決めると思うんですけど、この 3 人が多様であってほしいということを議論の中で申し上げました。

多様というのは、先ほど紹介がありましたように、国際的な人事交流に基づいていたり。あとは、3 人いたら、一番若い人と年寄りで 10 歳くらい違うと、ジェネレーションが違うので発想も違うと思うし。そこに女性が入ってくるのもありだと思うし。先ほど、もっと流動的な労働市場というお話もありましたけど、そんなふうに、他の分野を経験した方。そういう多様性があってほしいなということを申し上げておりました。

—— これは議論していないことなんですけれども、第三者だったら信頼できるよねという議論は、そもそも当事者が信頼されていないということが前提だということに、今改めて気がついて、どうしたものかなという印象を持ちました。

(総合 F) ありがとうございます。他の方はよろしいですか？

—— 今日が最後なんですけど、建設的な議論は今日が初めてなんですよね。年代とか性別とか、多様性があつての結論ということであれば、今までの意見では、最高に感動したところです。

(総合 F) どうもありがとうございます。(拍手)

それでは A 班のほうに移動をお願いします。では、よろしくをお願いします。

—— A 班の発表をいたします。『「原子カムラ」はあるのか、ないのか、何なのか?』。まず、「ある」という意見ですけども、マスコミの影響、専門家の集団であるということ、そして、利害関係がある集団であると。この大きな 3 つのかたまりがあります。

「ない」という意見もありまして、専門家の中でも説明の仕方が違ったり、異なる意見があるようなので、本当にあるのかないのか分からないというようなものがあります。

あとは、中間的な意見がありました。不透明性があつて、お互い疑っている関係。まあ、信頼関係がないというところに行くわけですね。閉鎖的なところで、信頼関係がないんじゃないかというのが中間の意見です。

で、こちらの『「原子カムラ」というものをどうしたらよいか?』では、まずは、「ムラ」という言葉をなくしましょうというところから始まりまして、そのためには何をしたらいいのか、という形でまとめました。

まず、親しみやすく、イメージアップをする必要がある。情報は絶対に隠ぺいしちゃ駄目だと。今までのイメージを払拭する必要がありますねというところでは。

そのためにどうしたらいいかということで、受け手側と発信側で考えました。

発信側のほうは、説明責任を果たし、そして透明性を持って説明するという。分かりやすく。専門家の説明の仕方は、正しく伝えようと思うがあまりに、かえって難しくなってしまうようなところがあると。もう少し分かりやすく工夫をする必要があるという意見が出ています。で、やはり、情報の公開を速く、分かりやすくというのが鉄則です。

受け手のほうは、まず、なかなか興味を持ってもらえないところがあるので、できるだけ聞く耳を持ってもらえるように、分からないからどうでもいいやという感じになっしまわれないように、もう少し聞く耳を持っていただくと。受け手のほうは、なんていうんですか、ちょっと聞く耳を持っていただくということが必要ではないかということです。

あと、今までも（そういう話が）ありましたけど、こちらでも「お互いを疑っている」という意見が、疑っているというか、どちらかという一般の方々は、今まで安全だ、安全だと言われていたところがありますので、それで今回、信頼がまったくなくなってしまったと。まずは信頼関係を築くことが必要だということで、その一語に尽きます。要は、発信側がまだまだ説明努力不足ということ、今回 A 班で、そういうところが認識できたということです。

何か補足することがあれば。よろしいですか。以上でございます。（拍手）

（総合 F） せっかくの発表の時間ですので、しっかりと使っていただければと思います。

—— ちょっと付け加えさせていただきます。ほとんど完璧なのですが、やはり信頼関係が一番大事だと思っています。で、フォーラムみたいな場を作らないと、コミュニケーションが取れないので、やっぱり、すごい今回はよかった。私たち一般の人間も、原子力関係の方とお話できた。コミュニケーションをどんどん取っていかないと、信頼関係は持てるものではないので、やはり、フォーラムのようなこういう場をどんどん作っていただければと思っています。それが最終結論ですね。

（総合 F） ありがとうございます。（拍手）